

功績概要

【芸術文化分野】 森 浩一 狂言師

氏は、昭和7年に三重県伊勢市で300年以上狂言師を務める森家の長男として生まれた。狂言師一家という環境の中で、氏は3歳のころから父から厳しい指導を受け、6歳で初舞台を踏んだ。中学から本格的に狂言師をめざす指導を受け、「三番叟」、「花子」を演じた。大蔵流二十四世宗家大蔵彌太郎氏に師事し、昭和47年に流儀の宗家が認めた最高の資格である大蔵流の職分師範を許され指導者となった。現在、三重県内では流派公認の唯一の狂言師として、伊勢神宮への春・秋の奉納、各地の薪能への出演など多数の演能会に出演している。

また、その傍ら昭和34年からは、中勢地区を中心に小学校・中学校の子どもたちに狂言指導を行い、伝統文化の重要性を伝えている。

さらに、大蔵流の番数は180曲あり、次世代に継承すべく自ら稽古場を創設した。ここでも教室を開いており、後進の育成指導の活動は50年に及び、教え子は200人にのぼる。

その他、昭和60年4月から伊勢伝統芸能連盟会長や伊勢市能楽連盟理事など団体の役職も歴任し、伝統文化を側面から支えている。このような活動が評価され、平成16年9月に伊勢市文化功労賞、平成19年3月には三重県文化賞文化功労賞を受賞した。

氏の活動や功績は、本県の芸術文化の継承に多大なる貢献をしている。

【芸術文化分野】 稲垣 武嗣 書家

氏は、昭和17年5月19日に三重県津市芸濃町で生まれた。独学で書道を嗜み書道家でもあった父の影響で高校時代から書道教師を志し、東京の二松学舎大学文学部に進学し、本格的に書道を学んだ。

卒業後、三重県立白山高校で書道兼国語教師として務めたのち、昭和46年から書道専任教師となる。以降、平成15年に退職するまで書道一筋で生徒と向き合った。同人は、生徒の個性を尊重することを心掛け、「芸術とは型にはまらず自由にするもの」を伝えた。

書家としては、昭和55年、村上三島氏に師事し、徹底的に基礎を磨き上げ技術の向上に励み、氏はこれまで日展入選7回をはじめ、数多くの書道展、美術展で輝かしい成績を残している。

また、氏は、三重県高等学校書道教育研究会会長の10年を務めたほか、三重県書道連盟運営委員長を2期、伊勢市や松阪市をはじめ県内の展示会の審査委員を現在に至るまで長年務めている。

こうした活動が評価され、平成12年に津市文化奨励賞、平成21年に三重県文化賞文化功労賞、令和4年に三十三ふるさと三重文化賞をそれぞれ受賞した。

氏の活動や功績は、本県の芸術文化の普及と発展に多大なる貢献をしている。